

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4791400023		
法人名	有限会社ほしくぼ		
事業所名	グループホームわくがわ		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字湧川1578-2		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年5月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームわくがわは、やんばるの自然に囲まれ羽地内海がみおるせる高台に位置し穏やかな時を過ごせる環境にあります。  
 ・入居者の安心と満足 ・地域の一員として ・「愛といきがい」のある職場を理念に  
 入居者、地域、職員の3本柱で地域に溶け込み支え、支えられる関係を作り開かれたホームを目指しています。  
 重度化・看取りに対しては、事業所に看護師、また村内の診療所の医師の協力のもと、日頃の健康管理を含め、緊急な事態にも対応できる体制を取っています。終末期ケアに関しては要望に応じ、望む方に関しては当事業所での看取りも実地している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihontrue&amp;Jizvovocd=4791400023-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihontrue&amp;Jizvovocd=4791400023-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成27年3月31日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所は、利用開始時に本人及び家族と看取りに関して話し合い、開所1年目にして1名を看取っている。緊急時だけではなく、日頃の健康管理においても医療連携体制が整い、開所以来、入院した利用者が一人もなく、利用者や家族の安心に繋がっている。食事は、3食とも事業所で調理し、殆どの利用者が完食している。地域には、認知症高齢者に対する見守り体制があり、昼夜を問わず、外に出ていく利用者の発見や連絡のためのネットワークが構築されている。災害時の通報システムに地域の民生委員や区長も登録され、火災時の応援体制も築いている。職員は、ミーティングを通して利用者の観察記録の情報を全職員で共有しており、理念にある「入居者の安心と満足」が実現できるよう、利用者一人ひとりの思いを大切に最期まで生活を支えていくという目標に向かって取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成27年5月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開業前、入職時に理念についての勉強会を行い共有できるようにしている。ホールに掲示しいつでも確認できるように掲示している。	理念は、開所時に管理者と職員で作成し、勉強会やミニミーティング等で理念に基づき、日々のケアを振り返っている。例えば、理念にある「入居者の安全と満足」は、利用者に畑仕事等の役割を担ってもらい、満足が得られる支援ができていないか、管理者と職員で話し合い、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者は、地域の清掃活動に参加し行事の際は着付け等で手伝いし参加されている。夏はバーベキューを行い近隣や地域の方に来てもらい交流し入居者の状態やホームでの生活をみてもらっている。	利用者は、公民館や役場の行事案内でエイサーや豊年祭り等を見学している。近隣住民から野菜や手作り菓子の差し入れがあり、事業所も菜園で収穫した野菜を近隣の食堂等に配っている。地域住民との協力体制があり、利用者が夜間に近隣を歩いていると、連絡が入る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地元の区長さんが参加されグループホームでの状況や認知症についての説明をしている。村の祭りに入居者の作品を展示し地域の行事に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、ホームの活動内容や事故報告等を行い参加者の皆さんからの意見を参考に、サービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議は、年6回行政職員が参加して、消防訓練等の行事の日に開催し、委員に事業所の運営状況を把握してもらっている。事故等を報告し、看取りや利用者の健康管理等の意見も出され、議事録から運営の透明性が確認できる。議事録は次の開催時に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村職員が2名参加されている。その方から村の状況を聞き協力関係が取れるようにしている。	管理者又は介護支援専門員が、支援が難しい認知症高齢者等の事例を検討する地域ケア会議に参加している。地域包括支援センターから台風時の避難場所の問い合わせがあるが、事業所は取り決め事項等を作成中であり、現在は保留になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針を、入所時に説明している。玄関などは夜間のみ施錠している。ミーティングなどで身体拘束についての勉強会を行い具体的な行為を正しく理解できるようにしている。	不穏状態時の転落予防のため、夜間のベッド柵(2本)使用者が1名おり、ミーティングで検討し、申し送りで情報を共有している。家族へは口頭で説明し、同意書等は作成していない。リスクについては面会時等に話し合い、ベッドの高さを低くする等で対応している。	身体拘束についての勉強会を行っているが、身体拘束の実施に当たっては3要件の順守、手順を踏まえて「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明及び確認書」の提出、及び検討記録の作成が求められる。

沖縄県（グループホーム わくがわ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時やミーティング等で虐待についての勉強会を行い、虐待のないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会は入職前しか実施できていないが実際に権利擁護を利用している入居者がいるので流れを掴むことができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を説明し、同意後契約書にて契約を行っている。 わかりにくいことがないか都度確認しながら契約に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも参加していただき、意見や要望をもらっている。 入居者が意見の言いにくい時などは居室や事務所にて話しを聞きプライバシーに配慮し話せる雰囲気作りをしている。 意見箱はあるが利用はほとんどない。	利用者の要望等は散歩時や在室時に聞き、「自宅が心配だから見に行きたい」「髪を切りたい」「ドライブに行きたい」等に対応している。家族からは面会時を聞く機会とし、「爪や髪を切ってほしい」等の要望が多い。毎月、介護相談員が訪問して利用者の意見を聞く体制もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が管理者へ意見や提案がいいやすい環境を心がけている。またミーティングや日頃の業務での意見も検討し反映できるようにしている。	職員の意見等は、気づきや問題点をメモして毎月のミーティングで話し合っている。例えば、トイレの臭い対策として、申し送りノートに対処方法を記入し、情報を共有している。管理者は、職員の見守り体制の必要性や夜勤時の負担軽減の意見を受け、宿直の導入を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社員の登用や、資格者の資格手当などの整備に努めている。 また職員の勤務希望に応じて調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の勉強会などは定期的に行っているが事業所外の研修は参加はあるが少ないので、職員の質の向上のため外部の研修を増やせるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接するグループホームとの交流は日々みられ、クリスマス会等大きなイベントは合同で行い交流を深めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的な会話や本人の生活歴等の話題の他、非言語コミュニケーション等も活用する中で本人の思いや、不安な事、要望等に耳を傾け、信頼関係の構築に努めている。また、同村の職員がいることで安心感もみられる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時や本人と関係の深い方々から、関係性や生活歴、要望等を聞く中で、今後の支援の方向性を話し合い双方の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を把握し、何が必要なかを見極め、他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の生活の中で本人の好きな事出来る事を見つける。季節の野菜を植え収穫し調理しやすいよう、野菜のつくろいや料理を作る際の作業を分担し、同じ目的を達成することで関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活や状態等を面会時や電話で伝え、博物館見学などの野外活動等では家族も一緒に参加し、食事を一緒に楽しみ、同じ時間を共有することで共に良い関係作りができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への散歩やドライブ等で知人や地域住民から声をかけられ笑顔での交流がある。家族が面会時本人が落ち着いて会話ができるように自室を利用させコミュニケーションを取ってもらうように支援している。	利用者の馴染みの植木屋で野菜の種を購入して菜園にキャベツやレタスを植えたり、地域の祭りで利用者が踊りを披露できるよう調整する等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。家族や区長等地域の方から情報を収集して、馴染みの関係性の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションを大切に席の調整をしたり利用者同士の関係がうまくいくよう支援している。 また職員が調整役となることで交流へと結びつけられるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接するグループホームへ移動となった方に対しては、現在も互いに行きし、行事等で顔をあわす際には関係が継続できるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通ができる入居者には本人の思いを聞き困っている事や希望に添えるようにしている。思いを伝えられない入居者は表情、家族の面会時に生活史や性格等を聞き入居者の気持ちに近づけるように努めている。	「お世話になっているので事業所で働きたい」と要望している利用者が、食事の準備等の役割を担っている。「畑が気になる」と昼夜問わず帰宅を強く願う方が、家族の協力を得て週3回畑に通うようになった事例もある。把握が困難な方は表情や態度で汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人家族より聞き取りを行っている。以前のサービスを受けていた職員より情報を得サービス計画に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方を生活史や習慣から「出来る事」「出来ない事」を見極め暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い家族の意向が計画に反映できるように努めている。 ニーズを確認し新たなニーズが発生した場合はミーティング等で話しあい対応している。	介護支援専門員は看護師と兼務で、担当職員と一緒に毎月モニタリング及び評価を実施している。担当者会議に利用者と家族、担当職員が参加しており、個別の支援内容を検討して介護計画に反映させている。定期的見直しは半年毎で、状態変化時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動、ADL状況等日々の記録をし実践を行っているが、実際に行った介護が記録に残ってない場合もある。		

沖縄県（グループホーム わくがわ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者同士の間人間関係から隣接のホームに移動し人間関係や症状(妄想)の改善に努めている。興奮状態が持続する場合は家族の状況にあわせその時に必要な支援が受けられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村や部落の行事等に参加できるように支援している。 (豊年祭、ハーリー、村の運動会、移動水族館、プロ野球観戦 等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の診療所より月2回の訪問診療 地元であるため入居前から受診し顔見知りの関係も多い。以前から利用の専門医の通院は家族に協力してもらいながら適切な医療が受けられるように支援している。	利用者は、顔なじみの診療所の医師がかかりつけ医で、月2回訪問診療を受けている。かかりつけ医は、昼夜問わず緊急時に対応している。専門他科外来は家族の対応であるが、困難な場合は事業所で支援している。必要な利用者は訪問歯科診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察の中で、バイタルサインや普段と様子が違う、入浴時の皮膚の観察等普段のかかわりで気づいたことは速やかに施設の看護師に連絡し早めに適切な対応ができるように連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開所時より入院者はいないが、急変に備え訪問医師と24時間連絡が取れるようにしている。また総合病院や近隣の施設へパンフレットや料金表を渡しこちらでの情報を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し入所時に説明し本人や家族の意向を確認している。実際にターミナル期をむかえる時に再度意向を確認し家族の思いを受けとめ訪問診療と相談しながら対応している。	これまでに1名の利用者を看取っている。隣接するグループホームでは10年以上前から看取りの経験があり、当事業所においても利用開始時に本人及び家族と看取りに関して話し合っている。医療との連携体制が確立し、看取りに関する指針及びマニュアルが整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による勉強会を行っているが訓練は行っていない。今帰仁消防署にて急変時の対応や心肺蘇生の講習を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報装置、スプリンクラーを設置している。1年に2回消防の立ち会いのもと消防訓練を行い実際に夜間の消防訓練を行い災害対策に努めている。区長さんや近隣の方も火災通報装置に登録してもらい協力していたく体制をとっている。	消防署立ち会いで年2回火災を想定した避難訓練を実施している。実際に夜間帯にも訓練を実施し、10分以内で避難を完了している。火災時には地域の民生委員等に連絡がいくような応援体制をとっている。水や食料等の備蓄は、法人全体で別の場所に保管している。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の名前はさん付けで呼び会話時は丁寧かつわかりやすく話すように心がけている。陰部洗浄の際には出来る事はやっていたき、出来ない事があれば声掛けをし配慮しつつ介助を行う。トイレ時は外に声が漏れないようにドアを閉め配慮している。	管理者は職員に、「認知症の利用者の症状を理解して支援するように」と伝えている。調査時、職員が丁寧な言葉使いで利用者の意思を確認してから支援していることが確認できた。排泄や入浴で同性介助ができない場合について、利用者などへの事前の了解が得られていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の着替えを本人に選択してもらうように1着1着目を通してもらい決定してもらっている。オヤツや飲み物等も希望を伺い選択し決定してもらっている。また声掛けし会話しながら思いをくみ取り自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を見て入浴を促したり拒否するときは明日へスキップしたり、「自宅に戻りたい」「午後は部屋でゆっくりしたい」等希望がある場合は本人と話し時間、日程、等を決め一緒に行動したり家族へ協力してもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時や昼寝後等髪を整え洋服の乱れ等を整えホールへ向かうように支援している。散髪時本人の了解を得てハサミを入れ鏡越しに確認してもらい本人の希望に添えるようにカットするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で育てた野菜を入居者と一緒に収穫しカットや皮むき、もやしのヒゲ取り等をお願いし出来上がった料理を1人1人へ伝え食に対する興味や喜び等を実感できるように支援している。	食事は、3食職員が調理している。家族や近隣の住民から差し入れがあり、菜園で収穫した野菜も毎日の食材に使用している。利用者は、もやしのひげ取り等の下ごしらえに参加している。職員も利用者と一緒に食事を摂っている。調査当日は、利用者全員が完食であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作る際には偏ることなくバランスの良い食事を提供できるように支援している。体調不良時はおかゆを提供したり尿量が少ない時は水分を多めに提供したりと日々の体調を観ながら支援している。		

沖縄県 ( グループホーム わくがわ )

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、その人に合わせ声掛け見守り洗浄の支援を行っている。週三回洗浄剤(ポリデント)を使用し清潔保持に努めている。うがいが困難な方にはガーゼを使用し清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人ひとりの状態を把握し入居者にあつた時間など職員間で共有できるようにしている。立位困難な入居者に関しては2人介助しできるだけトイレでの排泄ができるように支援している。	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を支援している。ミーティング等で昼夜の排泄状況を共有し、利用者に合わせた介助方法を検討している。職員2人での対応も実施し、夜間はポータブルトイレやおむつ使用の対応もある。便秘予防のため豆腐や豆乳も取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前午後と体操等を取り入れ便秘予防に努めている。トイレ介助時腹部マッサージを行い便通を促している。便通の良い食事を提供し週に1度配達される豆乳が苦手な方にはスープやおやつ時にケーキに混ぜたり工夫し提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	週3回と日程を組んでいるがホームの畑で作業を行ったり、外出した場合等入浴日以外でも入浴できるように声掛けしている。入浴声掛けに拒否される方には時間をあげ再度声掛けしそれでも拒まれる方には翌日に声掛けし希望に沿えるようにしている。	入浴は週3回を基本としているが、本人の希望に添って畑仕事を終えて帰ってくる利用者には、毎日入浴できるよう支援している。入浴後、利用者はクリームや化粧水をつけている。入浴を拒否する方には時間をおいたり、日を変えたりして入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やドライブ、菜園手入れ等日中に活動を行い落ち着いて気持ち良く眠れるように支援している。食後など「どうされますか?」「休まれますか?」と本人の意思を確認できるだけ本人に合わせ休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理を看護師が実施し介護職員が投与し分からない事があれば看護師に確認、体調変化等あれば報告、観察、記録し薬の変更ある時は申し送りノートに記録し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人ひとりの仕事での経験や趣味を生かしたレクやイベント等を考えメリハリのある日々を送れるように支援している。		



沖縄県 ( グループホーム わくがわ )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の天気や気温に気をくばり、入居者の行きたい場所を事前に情報収集し散歩やドライブを行うように支援している。また、「洋服が買いたい」「畑が気になる」等突発的にできる希望には家族へ連絡したりと対応できるようにしている。	利用者は、日常的に近隣の食堂や植木屋まで散歩をし、気分転換に毎週、ドライブがてら外出をしている。時には桜やつつじ祭り等に遠出することもある。「仏壇が心配なので家に帰りたい」との希望に、職員4人で車いすごと担いで階段を上り下りし、自宅に戻った事例がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で毎月小遣いをもらい手元で管理されている入居者がいる。ホーム内に設置されている自販機までいかれ購入している。何が飲みたいか自分で選択し買う楽しみを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話はいつでも使用できるようにしてあるがかけることが難しい入居者にはダイヤル呼び出し等の手伝いをしている。お正月の年賀状を出来るところは自分で書き出来ない箇所は手伝い家族や友人へ届ける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、ホールの壁等を利用し季節や行事に合わせた貼り絵や行事の時の様子を写した写真等を飾り心地よく過ごせるようにしている。共用トイレ使用后汚物汚れなどがあれば次に利用される方の事を考え直ぐに洗浄するよう心掛けている。	行事の時の利用者の写真を事業所内に掲示している。食卓には季節の花を飾り、排水溝などは臭いがこもらないようにEM菌で処理している。読書する方のために一人用の机を設置したり、一人でも過ごせるよう廊下にソファも置いてあり、利用者は好きな場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にテーブル、椅子、ソファを設置し読書等を出来るスペースを確保している。よくテレビを見られる入居者にはTV正面に席を設け楽しめるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた寝具や個々の思い出の写真、イベント時に撮影した写真等を飾り、笑顔や懐かしめる居心地がいいと思える居室作りを心がけている。	居室は、利用者の好きな琉歌が壁に貼られていたり、枕や毛布等の寝具類以外に、これまで自宅で使っていた鏡や家族の遺影が持ち込まれている。低床型ベッドを設置し、安全に居室内を移動できるよう配慮している。持ち込みが少ない利用者の居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には手すりが設けられており出来る事は自力で行えるよう声掛けしている。新たに「わかること」は職員で共有できるようにミーティング等で話し合い安全に配慮するようにしている。		